

令和 8 年度 動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査計画（案）

1 目的

都内における動物由来感染症の動態を把握するため、実態調査等を実施する。また、その結果を都民や動物取扱業者に還元することにより、動物由来感染症の発生防止を図り、都民の安全確保及び飼い主・動物取扱業者の適正な動物飼養管理等の一層の充実に資する。

2 調査項目

(1) 犬及び猫の寄生虫調査

ア 調査理由

犬・猫の体腔内には、回虫、条虫、鞭虫など様々な寄生虫が寄生している。多くは人獣共通の寄生虫であり、人に重篤な症状を起こすものもある。

保有状況の把握のため、令和 8 年度も引き続き調査を実施する。

イ 調査規模

犬 5 頭、猫 50 頭

ウ 検査方法

糞便検査と解剖検査による心腔内及び消化管内の寄生虫の調査

※動物愛護相談センターで虫卵及び虫体の同定が困難な場合は、健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫研究室に同定の協力を依頼する。

エ 検査機関

動物愛護相談センター 城南島出張所

(2) 犬及び猫の SFTS(重症熱性血小板減少症候群) ウイルス遺伝子モニタリング調査

ア 調査理由

国内における患者は、これまで西日本を中心に報告されてきたが、近年、東京都を含む関東圏でも報告されている。今後も引き続き身近な動物の感染状況を把握することは、人の予防対策の検討に役立つと考えられる。

当所では、令和 7 年度に犬猫の口腔拭い液を検体としてリアルタイム PCR 法による SFTS ウイルス遺伝子検査を実施したが、SFTS ウイルス遺伝子は検出されなかった。

保有状況の把握のため、令和 8 年度も引き続き調査を実施する。

イ 検体及び調査規模

犬及び猫の口腔拭い液 犬 5 頭、猫 70 頭

ウ 検査方法

リアルタイム PCR 法によるウイルス遺伝子の検出

エ 検査機関

健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科

3 実施期間

通年

4 調査結果

調査結果は、城南島出張所でまとめ、動物愛護相談センターが開催する調査研究発表会で報告する。また、東京都動物由来感染症検討会に報告し、内容を精査した後、都民や動物取扱業者を対象とした普及啓発材料として活用する。